

## 人事案件

### ◆人権擁護委員の推薦

ながやま のぶひろ  
長山 宣弘 氏（久那瀬）

9月30日に任期が満了となる岡 豊子さん（久那瀬）の後任委員として、法務省に推薦することについて、議会の意見を求められたことから、異議なく賛同しました。

## 条例

### 条例制定

#### ◆町水道料金等審議会条例の制定

（全員賛成 原案可決）  
町営水道（上水道・簡易水道）や下水道、農業集落排水などの料金等について、調査・審議するための審議会条例を制定しました。

### 条例改正

#### ◆町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部改正

（全員賛成 原案可決）  
◆町職員の育児休業等に関する条例の一部改正  
（全員賛成 原案可決）

（全員賛成 原案可決）

国の育児休業制度の見直しによる関係法令の改正に伴い、町職員の育児休業や介護休暇、早出遅出出勤、時間外勤務の制限などの条件緩和のため、所要の改正を行いました。

#### ◆町職員団体のための職員の行為の制限の特例に関する条例の一部改正

（全員賛成 原案可決）  
町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例に「時間外勤務代休時間」が新設されたことに伴い、代休時間を活用して、職員が職員団体のための業務や活動を行うことができるよう改めました。

#### ◆町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

（全員賛成 原案可決）  
町長等が任命又は依嘱する委員会や審議会などの委員（非常勤特別職員）の報酬や費用弁償を定める条例に「水道料金等審議会委員」を加えました。  
報酬額 日額5,000円

## 補正予算

### ◆平成22年度一般会計補正予算

（全員賛成 原案可決）  
デマンド交通システムの試行に係る経費（7百万円増額）と大那地区山林境界明確化事業に対する交付金（1千万円）を計上し、総額千7百万円の予算を増額しました。



デマンドタクシー10月試行運転開始

## 議員派遣

●栃木県町村議会議長会主催  
●催町村議会議員研修会  
派遣場所 宇都宮市  
派遣日時 7月29日  
派遣議員 全議員

## 一般質問 ここが聞きたい!

紙面の内容は、質問・答弁とも質問者自らが要約、執筆したものを掲載しています。

第4回町議会定例会の一般質問に、4議員が登壇しました。

- |         |   |
|---------|---|
| 益子明美 議員 | ケーブルテレビ事業について<br>保育園、幼稚園、学校等での農薬散布について<br>住民サービス向上のために<br>子宮頸がんワクチンの助成について<br>町内消費を促進させるために |
| 益子輝夫 議員 | 少子化対策について<br>高齢者介護対策について  |
| 橋本 操 議員 | 水路等の整備について<br>道路網の整備について<br>梅曾地区の道路について   |
| 小林 盛 議員 | 那珂川町の振興策について<br>高齢者にやさしい町づくりについて  |



## ケーブルテレビ事業の効率的な運営、サービス向上、より高度な活用をめざして



益子明美議員

**質問** ケーブルテレビ運営について次の点を伺う。

ケーブルテレビ事業への一般会計繰出金をなくし、運営費を使用料で賄えるようにするためには、どうすべきと考えるか。

自主放送番組の2次利用として、道の駅観光センターに設置されている大型テレビでのビデオ放映やインターネット動画サイトへの投稿、町ホームページでの動画リンク公開などの考えはないか。

町民からのビデオ投稿受け付けや住民ディレクター募集など、番組づくりに町民が参加できないか。

高度情報化計画の中でのソフトアプリケーシオンは、どのようなものを考えているか。

**回答** (ケーブルテレビ放送センター室長) 高度化事業によりデジタル放送の再送信、インターネット、IP電話、CS有料放送などの新しいサービスの提供とともに、維持管理面でも、より高度で専門的な技術や知識が必要となってきた。

運営の効率化を図りながら、番組制作部門の業務委託や指定管理者制度導入について調査研究しているところであり、今後、ケーブルテレビ施設運営委員会等に報告し、検討していきたい。

現在、2次利用として栃木テレビへの話題提供や自主放送番組の録画サービスを行っている。

ブロードバンド環境の普及により、動画情報で広報やPRを行う自治体が増えているが、個人情報の問題や権利など諸条件をクリアしなければならぬことから、今後の検討課題とした。

観光センターでのビデオ

放映は、商工観光課と連携し、対応したい。

ビデオ投稿は、現在も募集している。住民ディレクターの提言は、大変興味ある企画で、ぜひ実現に向けて検討したい。

計画では、活用の形態を放送系と通信系の2系統で考えている。ケーブルテレビ放送などの放送系は既に稼働しており、通信系では、在宅健康管理サービスなど様々なアプリケーシオン導入を提言しており、町民の要望に対応しながら関係部署等と調整して進めていく。

### 窓口業務を検討し住民サービスの向上を

**質問** 土・日でも住民票や

印鑑登録証明書などが発行できるよう、窓口業務を行うか自動交付機を導入する考えはないか。

また、役場に来た方が、スムーズに用事が済ませられるよう、総合案内係を配置できないか伺う。

**回答** (住民生活課長) 土・日の業務や自動交付機導入については、人員配置や経費等の問題もあり、現時点

では考えていないが、現在実施している窓口延長業務については、要望等があれば、曜日や時間を更に検討していく。

(総務課長) 本庁舎、小川庁舎とも、庁舎に入ればすぐに窓口があり、全職員が案内係として対応しているところであり、職員削減を進めている中での専任者の配置は、人事配置上難しい。



案内係の配置を

### 当町でも子宮頸がんワクチンの助成を

**質問** 子宮頸がんワクチン

の公費助成を実施する自治体が増えてきた。当町でも、その効果等を検証し、公費助成を行うべきではないか。

**回答** (町長) 国県の動向を見据えながら接種対象年齢や実施方法、また、思春期

を迎えた女子が、成長と健康について、適切に理解できるよう配慮する必要性など、関係機関と前向きに検討したい。

### 町内での消費の促進を図るためには

**質問** 馬頭地区商店街では、

馬頭オールスタンプ会によるスタンプサービスが行われており、町内消費の循環に役立っている。

今後、より一層の町内消費の拡大や金銭の町内循環ができる方法を検討すべきと思うが、どう考えるか。

また、町内消費による付加価値として、納税や町の使用料、手数料等にも利用できるよう検討してはどうか伺う。

**回答** (商工観光課長) 商店街では、各種イベント開催や年末福引大売り出し、福袋販売など町内消費拡大を期待した取組みが行われており、更に支援していきたい。

納税等への利用については、小切手化等の事務など課題も多く、現時点では困難な状況と考える。

## 安心して生み育てられる環境づくり 少子化対策の充実を



益子輝夫議員

**質問** 今、町内で子どもを産もうとしても産料がないため、近隣のさくら市や大田原市で出産することになり、出産費用は50、60万円位かかると聞く。42万円までは健康保険で賄えるが、それでも足りないのが現実である。

町は少子化対策、子育て支援について、どう考えるのか次の点を伺う。

現在、町が行っている少子化対策の効果と今後の子育て支援策は。

町独自のお産手当として、出産祝い金などの制度化を考えるとどうか。

町が子育てを応援し、「本当にこの町で生まれて、育てて良かった。」という環境をつくっていくことが大事ではないか。

当町では今年度、義務教育修了までの医療費を無料化した。さらに窓口での立替え払いをなくす方向で考えられないか。また、食事代などの負担もなくし、完全無料化にできないか。

**回答**（町長） 子育て支援については、次世代育成支援対策行動計画により、総合的な子育て支援の充実を図っている。

今年度から子育て支援策として、子供医療費の助成対象を中学3年生まで拡大した。また、わかあゆ保育園と子育て支援センターの設置により、保育サービスや子育て支援の充実が図られるものと考ええる。今後は、子育てボランティアの育成や子育て支援ネットワークの構築により、地域全体で子育て支援ができる体制整備に取り組んでいく。

（健康福祉課長） お産手当の制度化については、昨年6月議会と同様の質問があり、実施の方向で祝い金制度の検討をしてきたが、

国の経済支援策として、子ども手当が創設されたことから、制度化を見送ったところである。

（町長） 様々な子育て支援に取り組んでいるが、今後、財政等もよく研究し、検討していきたい。

（健康福祉課長） 子供医療費の現物給付については、小児医療団体等から安易な受診の増加につながり、小児救急医療体制が崩壊しかねないとの要望や医療保険制度への影響も懸念されることから、今後、財政負担の増加など、総合的に検討していきたい。



お産手当で子育て支援を

### つくってほしい

#### 高齢者介護施設

**質問** 私たちが発行している地域新聞「新なか川」の町民アンケートでは、「公的な介護施設をつくっても

らいたい」という要望が一番多かった。

現在、町内の介護施設はどこも満杯で、担当課長に聞くと、重複分も含めて63名の方が入所できないという現状をどう考えているのか。

今後、団塊の世代にかけて高齢者が増えていくが、町営の介護施設をつくる考えはないか。

馬頭総合福祉センターの入浴施設やレストランの有意义的な使い方を考えてはどうか。

**回答**（健康福祉課長） 町における介護施設の現況は、特別養護老人ホームが2事業所（100床）、ショートステイが2事業所（30床）、デイサービスが5事業所（定員93名）、訪問介護事業所が3事業所、小規模多機能居宅介護施設1事業所（定員25名）と併設するグルー

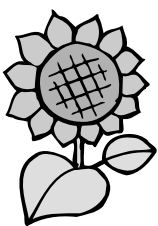
プホーム（定員9名）であるが、施設は徐々に増えてきており、施設については、県の計画により当町の整備数は満たされている状況となっている。

現在、平成24年度に小規模多機能型居宅介護事業所及び併設するグループホームを開所すべく事務を進めている。

町営の介護施設整備は、民間事業者が参入しているのを考えていない。

（町長） 当町でも10、15年先には40、50%の高齢化率になると思う。そういったことを考えた時には、施設を増やすことも大切と思うが、現在、特別養護老人ホームの増設や多機能型居宅介護事業所も検討されており、できるだけ高齢者に配慮していきたい。

（健康福祉課長） 馬頭福祉センターは、今年度から管理業務を社会福祉協議会に委託したが、運営は町が実施しており、今まで同様の活用が図れると考えている。



## 望まれる水路等の整備



橋本 操 議員

**質問** 町道本町宮下線は地域の重要な生活路線となっていることから、整備について次の点を伺う。

町道の西側は水路となっており、地域住民からは崩落防止のため、水路西側面の土留め整備が望まれている。

この水路は、地域の消火水利や下流域の農業用水にも利用されており、大変重要な水路でもあることから、水利確保や災害予防の面からも早急に整備する必要があるのではないか。

道路に隣接する樹木等により通行が危険な箇所もある。通学路でもあり、交通の安全性の面からも水路整備と併せて改善できないか。  
**答弁**（建設課長） 当該水

路の設置及び管理者は小川土地改良区であり、定期的に十砂しゅんせつ等適正な管理を行っている。と聞いている。

水路改修については、基本的に土地改良区となるが、町としても町道管理者及び水路底地管理者の面から適正な管理に努めたい。

通行の面からは、現在の町道の幅員で十分対応できると考えており、随時、舗装の修繕等を行い、交通や日常生活に支障をきたさないよう管理に努める。

### 町道大山田立野線の真の整備について

**質問** 町道大山田立野線が整備され、利用者は大変喜んでいますが、この町道と連絡する県道大山田下郷小砂



町道本町宮下線起点付近

線の整備についても、地域住民から町や県に整備に関する要望が提出されており、地元でも切望しているところである。

この県道が整備されることによつて、真の大山田立野線の整備になると考えますが、町は県に対してどのような要望をしているのか伺う。

**答弁**（町長）町道大山田立野線については、平成15年から整備を進めてきたが、本年度当初に舗装工事を行

い、全線の整備が完了した。今後は、この路線に連絡する町道と見立野線の整備を進める計画となっている。

大山田下郷と小砂を結ぶ集落間連絡道は、この町道2路線と県道大山田下郷小砂線がすべて整備されてこそ、地域間の交流と日常生活の利便性の向上が図られると考える。

今後、町道の整備と連携させ、県道整備についても県に要望していく。

### 町道梅曾公園線整備の考えは

**質問** 町道梅曾公園線は、幅員が狭くカーブになっている。梅曾公園への入口であり、通学路にもなっている、往来にも大変危険な状態と考える。

以前より道路改良について、地元要望もあると聞いているが、安全・安心なまちづくりのためにも整備すべきと考えるが、改良の考えはあるか伺う。

**答弁**（建設課長）町道脇には数か所、生垣や林があるところもあり、屈曲した道

路であるため視界が一部さえぎられている。また、舗装についても、全体的に損傷が目につくようになってきている。

日常生活に利用される道路であり、町が管理する公園もあることから、随時、補修を行ってきた。

町では、町道全体の道路整備の優先性を考慮して整備を進めてきているところであり、当面、危険個所の改修や路面の修繕で対応していきたいと考えている。

路面の傷みが激しい町道梅曾公園線



## 地域の活性化や経済の振興を どう考えるのか



小林 盛 議員

**質問** 全国の市町村が大きな課題として取り組んでいる地域の活性化や地域経済の振興を、町長はどう進めていく考えか。

活性化や経済の振興を図る上で、花の風まつりなどの民間活力や文化財、農産物、那珂川をはじめとする豊かな自然環境、小砂焼などの工芸品、馬頭温泉郷、美術館、道の駅などの観光施設を総合的に観光資源として活かすべきと考える。

また、より多くの人たちに当町を訪れてもらうために、那珂川の河川堤防を利用して花の名所を作る等、新しい取り組みも必要と思うが、どのような方策を考えているのか伺う。

**答弁**（町長）町総合振興計

## 地域の活性化や経済の振興を どう考えるのか

画の基本目標に掲げる「人がにぎわい活力あるまちづくり」を推進し、歴史文化資源や観光資源を地域の人材や情報通信技術でネットワーク化して情報発信するなど、観光基盤の整備充実を図るとともに、観光と連携した農林水産業や商工業の振興により、地域活性化及び地域経済の振興を図りたい。

また、産学官連携事業や町独自の特産品開発、ブランド化によって、販売促進と交流人口の増加を図っていききたい。

商工会、観光協会が一本化されたことから、今後、農協等も含めた関係団体との連携を更に強化し、町の振興を図っていききたい。（商工観光課長）現在、県等の連携により観光キャン



花のまちづくりに河川堤防を活用できないか

ペーンに参加し、誘客活動を行っている。

花のまちづくりとして、カタクリ、イワウチワ、ポピーなどへの取り組みを考えている。河川堤防の活用については、国土交通省との関係もあり、今後の研究課題としたい。

## 高齢者にやさしい まちづくりを

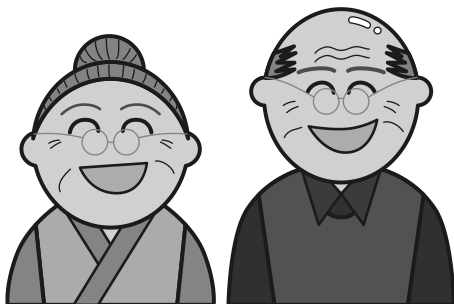
**質問** 核家族化や高齢化が進んだことよって、頼れる家族もなく、高齢のために車の運転ができないばかりか、歩くことにも不自由な高齢者もいる。日常生活用品等の買い物や病院に通院するなど、生活するために必要な最低限のことにも困っている方に、行政として何らかの手助けができないものか伺う。

また、ボランティアなど商店街との連携により、高齢者への買い物代行等のサービスを行うことができないか伺う。

**答弁**（健康福祉課長）当町の高齢化率は28%を超えており、65歳以上のひとり暮らし割合は1割、高齢者世帯は2割程度となっている。高齢者対策として、町では様々な施策を講じており、高齢者の交通手段としても活用できる、より利用しやすいデマンド交通を本年10月から運行することとしている。また、生活支援ホームヘルパー派遣事業や高齢者軽度生活援助事業など、日常生活に必要な援助のほか、介護が必要な場合には、介護が必要な場合にサービスを受けられるようになってきている。

町では高齢者の生活支援のため、様々な相談ができる地域包括支援センターを設置しているので、気軽にご相談願いたい。

今後は公的な制度活用のほかに、提案の買い物サービスなど、ボランティアや地域での支え合いの中での取り組みも重要となっていくことから、現在策定している「地域福祉計画」の中で、誰もが住みなれた地域で安心して生活できるよう、住民同士の支え合いネットワークづくりを推進していきたい。



高齢者が安心して暮らせる町に

（一般質問は、紙面の都合により、一部掲載を省略してあります。）